

厚生労働行政推進調査事業費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

がん対策推進基本計画におけるロジックモデルの構築・改善に関する研究

研究代表者	祖父江 友孝	国立がん研究センターがん対策研究所 副所長
研究分担者	井上 真奈美	国立がん研究センターがん対策研究所予防研究部 部長
研究分担者	片野田 耕太	国立がん研究センターがん対策研究所データサイエンス研究部 部長
研究分担者	中山 富雄	国立がん研究センターがん対策研究所検診研究部 部長
研究分担者	東 尚弘	国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部 部長
研究分担者	市瀬 雄一	国立がん研究センターがん対策研究所医療政策部 研究員
研究分担者	鈴木 達也	国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部 部長代理
研究分担者	全田 貞幹	国立がん研究センター東病院 放射線治療科 医長
研究分担者	小川 朝生	国立がん研究センター東病院精神腫瘍科 科長
研究分担者	中澤 葉宇子	国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部 研究員
研究分担者	若尾 文彦	国立がん研究センターがん対策情報センター本部 副本部長
研究分担者	藤森 麻衣子	国立がん研究センターがん対策研究所サバイバーシップ研究部 室長
研究分担者	高山 智子	静岡社会健康医学大学院大学 教授
研究分担者	八巻 知香子	国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部 室長
研究分担者	木澤 義之	筑波大学医学医療系 教授
研究分担者	助友 裕子	日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科 教授
研究分担者	西田 俊朗	独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）院長
研究分担者	松本 公一	国立成育医療研究センター 小児がんセンター センター長
研究分担者	藤 也寸志	九州がんセンター 消化管外科 院長
研究分担者	澤田 典絵	国立がん研究センターがん対策研究所コホート研究部 部長

研究要旨

がん対策は、がん対策基本計画に基づき、総合的かつ計画的に推進されており、がん患者のニーズや社会的な課題等を踏まえ施策を実行しているが、がん対策の現状を踏まえた評価が求められる。今般、第4期がん対策推進基本計画（以下「4期計画」）において、計画の策定及び評価・進捗管理のためにロジックモデルを導入した。本研究班では、4期計画策定の際に提示されたロジックモデルに基づき、各アウトプット、アウトカムについて、指標の設定状況を再確認するとともに、指標測定のためのデータソースを確保し、評価の際に比較の基準とするベースライン値を確認し、さらに、中間評価、最終評価につなげるための継続的な測定を可能とする体制づくりを行う。また、今後、継続的に必要な見直し等を実施していくことを目的としている。令和5年度は、4期計画のロジックモデル、および、指標一覧を基に、指標測定に必要なデータソースについて確認し、2023年4月1日時点での最新値の取得を基本として、指標値の作成を行った。各アウトカム指標の総数は、分野別アウトカム指標は30、中間アウトカム指標108、アウトプット指標は146であった。今年度、測定済みの割合は、分野別アウトカム指標は25-100%であり、中間アウトカム指標は36.8-100%であり、アウトプット指標は57.1-88.9%であった。未測定の指標について必要に応じて、利用申請を行い、令和6年度公表後に利用可能となるものなど、令和6年度中の測定が済む予定が立っており、ベースライン値の測定は順調に進捗した。今後は、ベースライン測定値の都道府県別の算出や、ベースライン測定値を踏まえて、ロジックモデル・指標の見直し、改善の検討を行っていく予定である。

A. 研究目的

がん対策は、がん対策基本計画に基づき、総合的かつ計画的に推進されており、がん患者のニーズや社会的な課題等を踏まえ施策を実行しているが、がん対策の現状を踏まえた評価が求められる。今般、第4期がん対策推進基本計画（以下「4期計画」）において、計画の策定及び評価・進捗管理のためにロジックモデルを導入した。

ロジックモデルは、個別施策とその直接成果であるアウトプットと、個別施策によって対象者に生じる変化である中間アウトカム、分野別アウトカム、最終アウトカムを、適切な推論のチェーン(chain of reasoning)によってつなげることにより、個別施策と最終アウトカムのつながりを確認するためのツールである。各アウトプット、アウ

トカムについて、測定可能な指標を設定することにより評価・進捗管理をデータに基づいて行うことが可能となる。そのためには、指標測定のためのデータソースを確保し、評価の際に比較の基準とするベースライン値を確認することが必要である。さらに、中間評価、最終評価につなげるための継続的な測定を可能とする体制づくりが必須である。

本研究班では、4期計画策定の際に提示されたロジックモデル（以下「現ロジックモデル」）に基づき、各アウトプット、アウトカムについて、指標の設定状況を再確認するとともに、指標測定のためのデータソースを確保し、評価の際に比較の基準とするベースライン値を確認し、さらに、中間評価、最終評価につなげるための継続的な測定を可能とする体制づくりを行う。その体制において、中間評価、最終評価のための基礎資料を構築し、また、4期計画策定の際に提示されたロジックモデルでは対応が不十分であった医療データを用いた医療の質評価、がん教育、格差等の点を含め、今後、継続的に必要な見直し等を実施していくことを目的とする。

B. 研究方法

1. ロジックモデル・指標の確認

4期計画のロジックモデル (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001138889.pdf>)、および、指標一覧 (<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001138890.pdf>) を基に、指標測定に必要なデータソースについて確認した。

2. データソースの確認

指標測定のためのデータソースについて、4期計画は2023年3月28日に閣議決定されたことから、2023年4月1日時点での最新値の取得を基本とし、すでに公表される値は、公表値を使用することとし、公表されていない値については、入手・利用方法の手順を確認し、または、今後の公表時期の確認を行った。

3. データソースの利用申請

指標測定のために、公表値がない場合は、利用申請を行った。

4. 研究班の進捗管理

Webによる班会議を分担研究者・研究協力者を中心に、概ね毎月行った。

C. 研究結果

1. ロジックモデル・指標の確認

2024年3月までに、4期計画のロジックモデル、および、指標一覧のデータソースについて確認し、測定のための準備を行った。

がん対策推進基本計画（令和5年3月、以下、基本計画）(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001138884.pdf>) は、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」を全体目標とし、その全体目標の下に、「がん予防」、「がん医療」及び「がんとの共生」の分野別目標を定め、これらの3本の柱に沿った総合的ながん対策を推進することとなっている。

4期のロジックモデルは、基本計画に記載の個別施策が、最終アウトカムである「がん罹患率の減

少」「がん死亡率の減少」「がん生存率の向上」「全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の維持向上」につながるよう、分野別アウトカム指標、中間アウトカム指標、アウトプット指標が示されている。

基本計画では、分野は大きく以下の4分野で構成されている。

分野
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築
4. これらを支える基盤の整備

各アウトカム指標数を記す。

【分野別アウトカム指標数】総数：30

分野	分野別アウトカム指標数
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	4
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	11
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	15
4. これらを支える基盤の整備	なし

【中間アウトカム指標数】総数：108

分野	中間アウトカム指標数
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	19
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	46
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	32
4. これらを支える基盤の整備	11

【アウトプット指標数】総数：146

分野	アウトプット指標数
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	18
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	72
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	35
4. これらを支える基盤の整備	21

2. データソースの確認

各指標におけるデータソースについて確認し、公表値は測定値として用い、公表されていないものは、公表時期を確認し、データソースの利用申請が必要の有無を確認した。

その結果、2024年3月31日までに測定値が確認された割合を以下に示す。

【分野別アウトカム指標】

分野	分野別アウトカム指標・測定済みの割合
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	25%
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	100%
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	100%
4. これらを支える基盤の整備	なし

【中間アウトカム指標】

分野	中間アウトカム指標・測定済みの割合
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	36.8%
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	65.2%
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	100%
4. これらを支える基盤の整備	81.8%

【アウトプット指標】

分野	アウトプット指標数・測定済みの割合
1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実	88.9%
2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供	72.2%
3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築	57.1%
4. これらを支える基盤の整備	85.7%

3. データソースの利用申請
指標測定において、以下のデータソースの利用申請が必要であり、現在、申請中である。

- ・全国がん登録
- ・NDB
- ・院内がん登録全国集計

(倫理面への配慮)

公表値を用いた指標測定は必要なし。
各データソース利用申請において、必要に応じて、研究計画書を作成し、国立がん研究センターの倫理審査委員会で審査・承認の手続きを経る。

D. 考察

基本計画における4つの分野に対して、ロジックモデルに応じた指標値の作成・測定を行った。

2024年3月31日までに、分野別アウトカム指標の測定済みの指標は、「1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」で25%と低かったが、それ

以外の分野は100%で全ての指標の測定が終了した。分野別アウトカムにおける未測定の指標は、全国がん登録をデータソースとしているもので、現時点で全国がん登録集計値で公開されていない指標であるため、利用申請を行った。来年度中には測定が済む予定である。

中間アウトカム指標の測定済みの指標は、「1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」で36.8%と低く、「3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」では100%で全ての指標の測定が終了した。1. における中間アウトカム指標における未測定の指標は、国民栄養・健康調査をデータソースとしているものであり、また、健康日本21にも準ずる予定の指標であるため、来年度中には測定が済む予定である。

アウトプット指標の測定済みの指標は、「3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」で57.1%と低く、「1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」では88.9%で、多くの指標の測定が終了した。アウトプット指標における未測定の指標は、現況調査、NDBをデータソースとしているものであり、集計中、および、利用申請中であり、来年度中には測定が済む予定である。

そのほか、未測定の指標についても、来年度公表後に可能となるもの、利用申請中のもの、など、来年度中の測定が済む予定が立っており、ベースライン値の測定は順調に進捗している。

今後は、ベースライン測定値の都道府県別の算出や、ベースライン測定の値を踏まえて、ロジックモデル・指標の見直し、改善の検討を行っていく予定である。

中間評価、最終評価のデータベース確認

E. 結論

4期計画のロジックモデル・指標を確認し、ベースライン値の測定を行った。公表時期を待っている指標、利用申請を行っている指標もあるが、ベースライン値の測定は順調に進捗した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

なし

2. 学会発表

なし

3. 書籍

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし